

授業の概要

矯正歯科治療の概要を理解し理論を基本として、矯正歯科技工の知識および治療との関わりを学ぶ。治療に用いる装置の目的、構成、使用材料および製作法を理解する。

- 教科書：最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）
- 授業時間：水曜日 18:00～19:35（11月21日 18:00～18:45）
- オフィスアワー：内田 靖紀 (uchida.yasuki@nihon-u.ac.jp) 水曜日 17:00～17:50
市川 裕美 (ichikawa.hiromi@nihon-u.ac.jp) 水曜日 17:00～17:50
- 成績評価：前期は定期試験(40%)，平常試験(10%)，後期は定期試験(40%)，平常試験(10%)として総合評価とする。平常試験後に解説を行いフィードバックする。
- 注意事項：講義時に教科書と配付プリントを持参すること。
- 授業方法：教科書に沿った内容のスライドとプリントを使用して講義を行う。
- 準備学習：事前に講義内容を教科書で確認しておくこと。
- 準備学習時間：予習と復習それぞれに講義時間と同等の時間を充てること。
- 実務経験：内田靖紀：現在、歯学部歯科矯正学講座に在籍しており、矯正歯科医としての臨床経験を交え講義することで理解を深めると考える。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回9月4日 市川 裕美	1. 矯正歯科技工の手技 1) 矯正用線の屈曲 (教) pp. 29-33 2) 自在鑑付け 3) 矯正用レジンの使用法	・ 矯正用線の種類と使用目的および屈曲に用いるプライヤーの選択と屈曲法が説明できる。
第2回9月11日 市川 裕美	2. 矯正歯科技工の基本的な手技 2) 自在鑑付け (教) pp. 33-36	・ 自在鑑付けと埋没法の違いを説明できる。 ・ 自在鑑付けの一般的原則が説明できる。
第3回9月18日 市川 裕美	3. 矯正装置の製作法 1) 舌側弧線装置 (教) pp. 50-55	・ 舌側弧線装置の製作方法が理解する。 ・ 補助弾線の種類と役割が列挙できる。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第4回9月25日 内田 靖紀	矯正歯科とは 4. 矯正歯科治療と 技工学 5. 矯正歯科技工学 の目的と意義 (教) pp. 1-3	<ul style="list-style-type: none"> • 矯正歯科の概念を説明できる。 • 矯正治療の特性と技工について必要性を説明できる。 • 咬合異常を改善し、正常咬合を確立、歯、口腔、顎、顔面頭蓋などの正しい発達を導くことを説明できる。 • 矯正技工によって製作された装置の役割と機能について説明できる。
第5回10月2日 内田 靖紀	6. 正常咬合と不正咬合 7. 不正咬合の分類 8. 矯正治療の進め方 9. 固定、保定 10. 矯正技工用器具と器械 11. 矯正用材料 (教) pp. 4-28	<ul style="list-style-type: none"> • 咬合位について説明できる。 • 咬合の定義、概念、条件また種類について説明できる。 • 分類法と診断法の特質欠点を説明できる。 • 検査、分析、診断による治療方針、治療方法と矯正装置の関係を説明できる。 • 使用器械、器具、鉗子などの用途と使用上の注意点を説明できる。 • 金属材料、非金属材料の用途、規格、所用性質、特性などについて説明できる。
第6回10月9日 市川 裕美	12. 保定装置 2) ホーレタイプ リテーナー (教) pp. 76-81	<ul style="list-style-type: none"> • 保定装置の使用目的および装置の構成を説明できる。
第7回10月16日 内田 靖紀	13. 矯正装置の製 作法 (1) (教) pp. 49-88	<ul style="list-style-type: none"> • 矯正装置の共通的な必要条件と分類、矯正装置の性質について説明できる。 • 実例に基づく、矯正装置の作用機序について説明できる。
第8回10月23日 内田 靖紀	14. 矯正装置の製 作法 (2) (教) pp. 49-88 15. 矯正歯科技工学 総論	<ul style="list-style-type: none"> • 矯正装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 • 使用材料と使用器具および製作法と製作上の注意点を説明できる。 • 矯正歯科技工学について、重要事項の理解を深めることができる。